

# 国語

1



光村図書

文部科学省検定済教科書  
38光村  
国語726  
中学校国語科用

# 「どちらそぞうさま。」と 言わなくても

井上 逸兵



筆者 井上逸兵 一九六一（昭和三六）—

石川県出身。社会言語学者。

著書 「伝わるしくみと異文化間コミュニケーション」  
出典 本書のための書きおろし。

友達に会ったとき、どんな挨拶をするだろうか。「こんにちは。」などと言った後に「元気？」などときいたりするかもしれない。玄関先で近所の人には「お出かけですか。」と声をかけるかもしれない。

ほとんどの場合、これらが挨拶の一部であることを我々は知っている。相手が本当に健康状態や行き先を尋ねているわけではないことを理解しているので、適当に「まあまあだよ。」とか「ちょっとそこまで。」などと軽く受け流すことができる。

かし、昼夜の習慣が根付いているケニア北部のレンディーレ族の間では午後の挨拶によくこの問い合わせがなされ、「すてきです。」という返事が返されるそうだ。

このように、ある場面でどんな表現をよく使うかは地域や集団によってさまざまなのである。これらは一種の型にはまった言い回しとして定着している場合が多い。我々は、日ごろから慣れ親しんだ表現には特に何も感じないが、異なる言葉の習慣には違和感を覚えたり、不可解に思つたりするものである。初対面の人に日本語ならよく「よろしくお願ひします。」などと言うが、そういう習慣のない人たちから見れば、なぜ会って間もない人にいきなり「お願ひ」するのだろうと不思議に思う人が多いのではないだろうか。し

相手に感謝を表すような場面を考えてみよう。日本語の決まり文句の一つは「ありがとうございます。」である。感謝を表す代表的な言葉といってよい。しかし、「すみません。」と言うこともよくある。ところが、「すみません。」のほうは「ごめんなさい。」と同様、謝るときにも使う言葉である。こちらは例えば英語なら“*I'm sorry.*”に相当しそうだが、英語でこの言葉を感謝を表すのに使うことはない。ただし、“*I'm sorry.*”という表現は「気の毒に思う」とか「残念だ」という気持ちを表すときにも用いる。それぞれに使う場面が少しづれているのである。

20

15

10

あつても、「いただきます。」のようなことは言わないのでは。「いただきます。」と言う習慣のある人には、そういう人たちがいきなり食事をし始めているように見えるだろう。「ごちそうさま。」を言わずに食事を終えるのは無礼にすら思えるかも知れない。しかし、もちろん「ごちそうさま。」を言ふ習慣のない人たちが「ごちそう」に感謝をしないわけではない。

ただ、そのための決まり文句がないといふことなのである。

さらに、同じ言語を用い、語る内容が同じでも、言葉の使い分けが問題となることもある。例えば、

サッカーやバスケットボールでは、味方にボールを渡すことを「パスする。」と言う。ところが、ある人が野球やソフトボールの観戦中に、「三塁手が一塁手にボールをパスした。」と言つたとしたらどうだろうか。この競技を知つていふ人なら、その言葉遣いに違和感



5

5

20

15

10

を覚えるだろう。なぜなら、野球やソフトボールではボールを「パスする。」とは言わず、「送球する。」などと言うからである。このような言葉の使い分けはさまざまな生活の領域にある。

こんな例もある。わたしがある留学生と立ち話をしているときに、別の男子学生が声をかけてきた。一言一言話をしてその学生は立ち去つたが、その後の留学生の言葉に「瞬たじろいだ。「あの男、誰ですか。」と言うのである。その留学生は言葉も態度もていねいに振るまおうとする人だつただけによけいに驚いた。しかし悪意があるようには見えなかつた。実際、この「あの男」を英語で“that man”に置き換えたとすればなんの違和感もない。しかし日本語では、話し相手の知人を指示示す言葉として、この状況での「あの男」は適切とは言ひがたい。

我々は自分の慣れた状況や場面では使う言葉に比較的無意識でいられる。しかし、慣れない場面で、適切な表現を選んで言つたり、適切な言葉遣いを使つたりすることは、自分の母語ですらいつも容易とは限らない。まして、それが母語ではない言語を用いているときや、異なつた習慣のある人たちと会話をしているときには、なおさらである。

逆に、日本語に慣れていない人と日本語で会話をしたり、

自分とは異なつた方言を使う人と話したりする場合には考慮が必要である。自分にとつて奇妙で不快な言葉遣いに出会つても、その人が慣れている言語の習慣の影響を受けているかもしれない、少し冷静になつてみよう。世界中に多くの言語があるように、言葉を使う習慣もさまざまなのである。「ごちそうさま。」と言わなくとも、もっと心のこもつた言葉や態度で感謝を述べているのかもしれない。

内田尚子・絵

5

### 注

①ケニアアフリカ東部の赤道直下にある国。一九六三年にイギリスから独立した。